



# しりょうかんだより



No.2



郷土資料館では、豊田の歴史を紹介する通常の展示のほか、年に数回いろいろなテーマの企画展がひらかれています。テーマにあわせてふだんは見られないめずらしい資料が展示されます。この秋は「食の民俗」というテーマで、昔のお弁当箱やとくべつな日の食の道具を展示しています。ぜひ、あそびにきてください。



## とよたのれきし(げんし2)

(2千300年から1千700年くらい前の話)

今から2千300年くらい前、私たち日本人にとって一番必要な食べ物、「お米」が本格的に作られるようになりました。「弥生時代」の始まりです。お米作りは朝鮮半島などから日本にわたってきた人たちが伝えた技術です。たくさんとれてたくわえられるので安定した生活ができるようになりました。また弥生土器を作る技術や、青銅器を作る技術も伝えられました。自然の神様を信じていた弥生時代の人たちは、お米がたくさんとれるようにおまつりをしました。青銅でできた「銅鐸」は、そうしたおまつりの時に使われたと考えられています。豊田市では手呂町から銅鐸がでてきています。



手呂銅鐸出土地の碑が  
手呂団地の一角にあります。

ひだりがわはんぶん こうじ  
左側半分は工事のときに  
ブルドーザーで削りと  
られてしまったんだよ。

手呂の銅鐸  
郷土資料館に収蔵しています。  
(県指定文化財)



# きせつのはなし — 七五三 —

## ◎ 七五三は何のお祝い？

毎年11月15日は七五三です。3才、5才の男の子と、3才、7才の女の子が、晴れ着を着て、千歳あめを食べ、神社などに  
お参りに行きます。

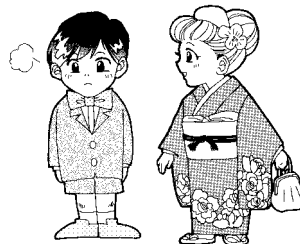


なぜこうした行事をするのでしょうか？

3才、5才、7才は赤ちゃんから幼児へ、そして子どもへと変わる成長の節目です。こうした成長の節目を祝う風習は、古くからありました。人間の成長の折々に行われる行事を通過儀礼と言ひ、満月に神を祭る古代の風習といっしょになって15日という日に行われていたのです。

七五三は子どもの成長を祝う行事として江戸時代には行われていました。

農村にはもともとその全部をまとめて祝う習慣はなかったのですが、江戸という都会で「七五三の祝い」は生まれたと考えられます。



## 民 具

M I N G U

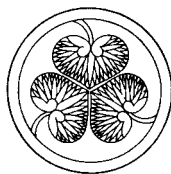
### 紋 (もん)

正装用の着物には紋をつけます。これには大きな意味があり、むかしは悪霊はすべて背後から忍び寄ってくるものと考えられていたため、お守りとして背中に紋をつきました。

同じみょう字の人は同じ紋がおおいよ。

きみの家の紋を調べてみよう！

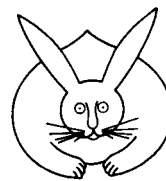
### いろいろな紋



みつばあおい  
三葉葵



えびまる  
海老丸



うさぎ  
兎

### しりょうかんだより No.2

平成12年11月15日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。